

産業開発青年隊同窓会元会長光森 徳雄様葬儀に参列して

産業開発青年隊同総会会長 鈴木 浩明

令和8年7月18日16:37 同総会相談役の福岡先輩より、突然電話が来ました。内容は、光森元会長が入浴中、心不全を起こして亡くなったというものでした。光森元会長は、初代升ノ内元会長の後、会長を務められました。青年隊50周年記念大会までは、升ノ内元会長が務められ、その後、長澤先生を偲ぶ会、55周年、60周年を企画運営され、南米青年隊60周年記念大会には、長澤亮太遺稿集「富士の如く」を、発刊されました。この発刊は数名の賛同者による自費出版となりました。また、建設省建設大学校中央訓練所 愛唱歌「まぶたの裏のあなたに」「ステキなオンナの娘」を55周年記念大会に作成されました。隊員時代には、小笠原復興派遣隊に参加されました。社会人になっても、カンボジア青年隊の創設に奔走し、留学生も自宅で引き受けられました。

光森元会長は、長澤先生の死んでも青年隊を実行された数少ない修了生であったのではないのでしょうか。私が、同窓会長を拝命した1期目、どのように同窓会を運営していくか、五里霧中の中、役員の皆様にメールで、問いかけることが多くありました。その時には、厳しさの中に優しさのあるメールを送っていただき、勇気づけられたことを思い浮かべることができます。産業開発青年隊同窓会の活動は、昭和40年代の方々が、同窓会をけん引されてきました。長澤先生は、昭和57年に退官されていますので、40代から50代の一番脂ののった青年隊活動を実践されていたのは昭和40年代だと思います。また、ちょうどその時期は、戦後の小笠原復興、沖縄復興の時期であり、青年隊も、宮古島詐欺復旧、小笠原復興、沖縄復興の中で、長澤先生をはじめ、隊員諸兄が青年隊活動を実践されていた時期と重なります。その中で、升ノ内先輩の産業開発（現サンテックインターナショナル）伊達先輩の日本振興が、華々しく展開をしていく時期となりました。その後、長澤先生が、退官をされてからは、青年隊の色が、だいぶ薄まっていきました。

ですから、長澤先生も、同窓会の中で、青年隊活動が、継承されることを、夢見ていたと思います。その中で、それを実践されていた方が、光森元会長だと思います。

青年隊にとって、誠に惜しい方を亡くしてしまいました。

18日の夕方に光森元会長が逝去された一報を受け、19日19時よりの通夜、20日13時よりの本葬とお聞きし、葬儀に参加することができるのだろうかと考えていました。富士宮より、松永監査が参列されるとお聞きしました。飛行機は乗り継ぎの関係から無理と判断され、新幹線で九州に向かう判断をされたそうです。私も多分行くなら新幹線だろうなと思いました。片道5時間以上の新幹線の旅となりますが、これしかないだろうと思いました。行き帰りの道中で、松永監査と光森元会長のひととなりを、お話してきました。

最後は、消滅する運命の産業開発青年隊ですが、年代を越えた絆を結ぶことができたことに感激をし、産業開発青年隊という、長澤イズムを体感できたことに、感激をしています。この伝承が、今後非常に大切なことを感じ、その伝承をいかに成し遂げるかが大きな課題になりました。最後にご家族のご挨拶を記載させていただきます。

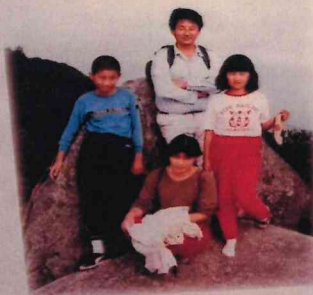
「家族になれて幸せでした 本当ありがとう」

創業から携わった会社を切り盛りしながら、様々な活動に心を寄せてきた父。カンボジアからの留学生のお世話など、何事にも一生懸命だった姿がまぶたに浮かびます。世のため人のためにと力を尽くしていた父から学んだことは語りつくせません。たくさんの方々から支えていただきながら、笑顔の花を咲かせた道のりを振り返り、今頃父もいつものように微笑んでいるのだろうと思いを馳せています。ここ数年は思うように身体を動かせず、もどかしさを抱えていたはずですが、辛そうな顔ひとつ見せることなく前を向いておりました。畑仕事など自分なりの楽しみを見つけ、精いっぱい命を輝かせた父にこちらが元気をもらったものです。今までどれほど大きな愛情を注いでもらったことか。共に歩んだ記憶はこれからもずっと皆様の心で生き続け心の支えとなってくれるでしょう。足跡を辿るほどにもっと恩返しをさせてほしかったと悔やむ思いもこみ上げますが、見送る今は顔を上げこの言葉を贈ります。「たくさんの愛情をありがとう、心から尊敬しています。」～子どもたちより



松永先輩 南米青年隊2世 山崎さん 福岡先輩 富重先輩 野見山先輩 鈴木





In Memoriam
Tokuo Mitsumori

